

目的 子どもが健やかに成長するためには、人的側面(家族、近隣関係、サービス)と物的側面(住宅、保育所・幼稚園など施設、遊び場など環境)が連携しながら、補完しあうことが必要である。そこで、本研究では、親、近隣関係、施設・サービスを統一的にとらえ、子育ての条件整備のあり方を探ろうとするものである。

方法 高知市内の4保育園、2幼稚園(立地は中心部と郊外地にある園)に子どもを通わせている母親に対し、質問紙調査を実施した。その際配布、回収は園に依頼して行った。調査期間は、1983年3月に郊外地で、84年3月に中心部で行った。その結果、有効回収数、郊外地290、中心部344を得た。

結果 (1)園を決定した理由は、家から近いことがどの園にも共通しているが、他項目では各園で差がある。そのうち、幼稚園では近所の子がいることが、保育園では立地によって職場(親の)に近いことが、理由として上げられている。(2)保育施設に対する不満は、園によって差があるが、保育園の方が多し。(3)近所の子の来訪経験、来訪人数は、母が無職の方が多い。(4)子どもの面倒を近所の人にみてもらった経験、物のやりとり経験は、母が無職の方が多い傾向にあるが、郊外地の有職者では「よくある」が、無職者より多い。(5)安心して留守にできるような人のつながりの有無については、中心部では無職者の方に「ある」が多いが、郊外地では差がない。もっと人のつながりを強くしたいかでは、郊外地の有職者で「大いに思っている」が多くなっている。(6)近隣の施設(集会所など)に対する希望は、両地域とも有職者の方が無職者よりも多くある。